

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (著書) Diseases of the chest, Imaging diagnosis based on pattern classification	共著	2006年	Thieme	<p>著書全体の概要:胸部レントゲンの所見の読み方、診断の仕方などを記載し、解説をしている。胸部画像の教科書となる本である。 (総ページ数:173頁) (著書全体の著者名 Toshiharu Matsushima, A Nagai, H Niwa, S Abe, T Okazaki, K Yoshida, K Chida, M Nakajima, K Eguchi, H Tokuda, J Fujita, Y Terada, T Enomori, A Kurosaki, M Kuwabara) 担当部分の概要: 肺胞腔内および間質性肺病変、肺水腫を呈する疾患についての胸部画像について解説している。 担当ページ:pp.69~80</p>
2 (著書) 家庭医学大全科	共著	2010年	法研	<p>著書全体の概要:日本の専門化が記載したベストセラー家庭医学書の一つである。 (総ページ数:2980頁) (著書全体の著者名;監修:高久史麿、猿田亨男、北村惣一郎、福井次矢、著者:竹内修二、田口進、内山聖、佐藤尚、山崎肇、今井千速、中島正光。2980ページにわたる本であり、執筆者も約600人となるため全てを記載できなかつた。) 担当部分の概要: 特発性間質性肺炎、放射性肺炎、薬剤性肺炎、過敏性肺炎、塵肺について疾患の概念、診断、治療などを記載した。 (担当ページ:pp.1046~1060)</p>
3 (学術論文) Differential expression of the glycosylated forms of MUC1 during lung development.	共著	2007年	Eur J Histochem	<p>論文全体の概要:肺の発生過程においてMUC1がどのような役割を果たしているかを病理組織学的に検討した研究。 (当該論文のページ数:8頁) (当該論文の著者名 Sakurai J、Hattori N、Nakajima M、Moriya T、Suzuki T、Yokoyama A、Kohno N) 担当部分の概要:全体の概要と同じ。共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (担当ページ:全体を共同研究で担当した)</p>
4 (国際学会発表) Usefulness of serum KL-6 (MUC-1) levels for indicating herbal medicine-induced pneumonitis (drug-induced pneumonitis) 筆頭	共	2010年	The15 th International Congress of Oriental Medicine	<p>著書全体の概要:薬剤性肺炎の診断を可能にしようとする研究。我々が開発した日本で保険適応をとり、一般に使用できるようにしたKL-6が薬剤性肺炎の診断に有用であることを報告した。 (著書全体の著者名:M Nakajima, T Shimatani, R Tanaka, N Mokudai, S Matsuda, M Mizooka, S Tazuma) 担当部分の概要:全体を担当</p>
5 (報告・総説) 間質性肺炎患診療マニュアル	単	2010年	南江堂	<p>著書全体の概要:間質性肺炎についてどのように診断治療すべきかなどを記載したマニュアル。 (総ページ数:329頁) (著書全体の著者名:中島正光) 担当部分の概要: 急性好酸球性肺炎について解説する。 (担当ページ:pp. 299~301)</p>